

研究科長挨拶

大学院教育学研究科長
大桃 敏行

本センターでは、平成 26 年 4 月に恒吉僚子教授が新たにセンター長に就任しました。新センター長の就任に伴い、センターの研究プロジェクトのテーマを「グローバル時代の学校教育」と設定するとともに、これまで行ってきた大学院生プロジェクトを「若手研究者育成プログラム」として実施しました。また、昨年度までセンターの『年報』として発行してきたものを、本年度から『研究紀要』に改めることとし、本号はこの「若手研究者育成プログラム」の論文を中心に掲載しました。学校教育の高度化の推進を目的とする本センターにとりましても、国際的視点からの学校教育のとらえ直しと研究成果の国際的な発信力の向上が課題となっています。本センターでは英語版のホームページを開設するとともに、大学院生プロジェクトでは学術交流協定を結んでいるストックホルム大学でシンポジウムも開催しました。

本センターは、小玉重夫前センター長のもとで、共同研究プロジェクト「社会に生きる学力形成をめざしたカリキュラム・イノベーションの理論的・実践的研究」の推進において、中心的な役割を担いました。本共同研究は小玉前センター長が研究代表者を務め教育学研究科の 20 名以上の教員が参加した大規模なプロジェクトであり、平成 23 年度から 25 年度まで 3 年間実施されました。平成 26 年度より、私、大桃が研究代表者を務め同じように教育学研究科の 20 名以上の教員が参加する共同研究「ガバナンス改革と教育の質保証に関する理論的実証的研究」がスタートしました。本センターはこの共同研究の推進においても中心的役割を担い、平成 26 年度は東京大学教育学部附属中等教育学校と共催で 2 つのシンポジウムを開催しました。この共同研究におきましても国際的な視点を大切に、ガバナンス改革と教育の質保証の問題について検討を行っていく計画です。

平成 26 年度は以上のシンポジウムのほかにも、カリフォルニア大学のカルロス・アルベルト・トレス教授をお招きしてグローバリゼーションと教育に関する公開講演会を実施するとともに、シンポジウムや講演会、セミナーの共催や後援を行ってきました。学校教育の高度化を国際的な視点から進めていくためには、国内外の諸機関との連携・協同が必要です。引き続き関係者の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。